

教育方法論	1・2年 前期	2単位	非常勤講師 池野 正晴
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	37011301

1. 授業のねらい・概要

よい授業を形成している要因を理解し、授業づくりの基礎・基本を修得できるようにする。また、授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、発問・指示・説明などの教授行為等）や学習モデル（アクティブ・ラーニング型の学習指導等）、教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態、教育工学、情報機器の操作・活用等について理解できるようにする。

2. 授業の進め方

- A「授業づくりネタクイズ」（できるだけ毎回）、B「教育方法学の基本概念」、C「実際の授業づくり」（B、Cについては並行して扱う）の3本柱で構成。常時、パワーポイント、OHC、DVDなどを活用する。
- 適宜、「授業づくりネタクイズ」を通して、授業づくりについて具体的に考えることができるようにする。

3. 授業計画

1. 教育方法論・そのプロローグー学生・生徒に培うべき資質・能力と「教育方法論」○×クイズー	多様化の原理ー（T）
2. B：教育内容と教材Ⅰー教材とは、教育内容とはー（パワーポイント資料等使用、以下「P」と略） C：「授業力」の上達（テキスト使用、以下「T」と略）	9. B：系統学習モデルと経験学習モデルⅡー問題解決学習ー（P） C：個を生かす指導原理ⅢーATI研究ー（T）
3. B：教育内容と教材Ⅱー区別する論理・意義と教材観・児童観の転換ー（P） C：教育現場における俗説と理念だおれの研究Ⅰー俗説と疎外要因ー（T）	10. B：発見学習モデルと一般的な教授・学習過程Ⅰー問題解決学習と発見学習、及びアクティブ・ラーニング型学習ー（P） C：「授業崩壊」の要因と遠因Ⅰー教師の力量の問題ー（T）
4. B：教材と教授行為Ⅰー授業Aと授業Bとで考えるー（P） C：教育現場における俗説と理念だおれの研究Ⅱー理念と理論の混同ー（T）	11. B：発見学習モデルと一般的な教授・学習過程Ⅱー一般的な教授・学習過程ー（P） C：「授業崩壊」の要因と遠因Ⅱー子どもの変容と家庭教育ー（T）
5. B：教材と教授行為Ⅱー教授行為と授業の成立ー（P） C：子どもの育ちをいかに援助するか（T）	12. B：学習指導に生かす教育工学Ⅰーメディアリテラシーと教育方法ー（P）
6. B：発問、指示、説明とはⅠー「発問」とはー（P） C：活動を主体化させる授業改革（T）	13. B：学習指導に生かす教育工学Ⅱー教育におけるコンピュータ利用ー（P）
7. B：発問、指示、説明とはⅡー「指示」、「説明」ー（P） C：個を生かす指導原理Ⅰー多様性・妥当性・有効性とゴールフリー・活動の多様化の原理ー（T）	14. B：学習指導に生かす教育工学Ⅲー教育におけるインターネット利用とICT活用の工夫・情報倫理ー（P）
8. B：系統学習モデルと経験学習モデルⅠー形式的教授段階説ー（P） C：個を生かす指導原理Ⅱー個人差重視・指導方法の	15. 教育方法論・そのエピローグ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 毎回の授業に関して、授業をうけた後に、授業内容を振り返り、その要点をノートにまとめておく。
- 小・中学校や高校において、これまで児童・生徒として受けてきた授業を思い出し、それらの授業とのつながりを具体的な例として、ノートにまとめておく。（ミニ・レポートとして提出）
- なお、これらの準備学修には、2時間程度の時間が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1 授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、教授行為等）について理解できる。
- 2 学習モデル（アクティブ・ラーニング型学習等）及び教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学

習形態等について理解できる。

3 教育工学, 情報機器の操作・活用, I C T教材作成等について理解できる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験 80% (筆記試験, 被教育者としての体験授業の分析レポート)

授業への参画度 20% (授業への参加・参画度, 貢献度, 参加・参画態度, 発言内容, コメント記入等)

8. テキスト・参考文献

[テキスト]

(1) 池野正晴『新しい時代の授業づくり』(実際の授業づくり), 東洋館出版社

(2) プリント資料

[参考文献]

(1) 佐藤学『教育の方法』, 左右社

(2) 中川・苑編『メディアと学校教育』, 放送大学振興会

(3) 水越敏行他『これからの教育とメディアの教育』, 図書文化

9. 受講上の留意事項

対話形式を重視し, 「その場に居て実例等について実際に考え, 話し合いに参加する」ことを大事にしたい。「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

教職の必修科目である。